

令和2年度 第1回

「松本市認知症施策推進協議会議事録」

松本市認知症施策推進協議会事務局

令和2年度第1回松本市認知症施策推進協議会

次 第

日時 令和2年7月16日（木）
午後1時30分から
場所 第2委員会室（東庁舎4階）

1 開会

2 あいさつ

3 会議事項

(1) 報告事項

ア 令和元年度事業報告について(資料1、資料1-1～1-5)

イ 令和2年度事業進捗状況について（資料2、参考資料2-1、資料1-5）

ウ 若年性認知症支援広域ネットワーク会議開催について（資料3）

(2) 協議事項

高齢者等実態調査の結果を踏まえた第8期介護保険事業計画等の作成に向けた認知症施策について（資料4、資料4-1～4-4、別冊）

4 その他

(1 開会)

事務局 午後1時30分、開会を宣言した。(委員12名のうち10名の出席があり、協議会設置要綱第6条第2項に基づき、会議は成立した)

(2 あいさつ)

会長 日々皆様は新型コロナウイルス対策でご苦労されていると思う。医師会として、二つの問題を大きく心配している。一つ目は、介護事業所の利用者や職員に感染者が出た場合。昨日、「新型コロナウイルス感染症対策介護事業所ネットワーク」が出来上がったと新聞報道され、一安心しているところである。もう一つは、冬場のインフルエンザと新型コロナ感染症がダブルできた時の診療についてである。心配しながら日々知恵を絞っている。それも踏まえ、認知症施策について進めていきたい。

(3 会議事項)

事務局 設置要綱第6条第1項に基づき会長が議長となり、挨拶をした。

議長 議長は報告事項の説明を求めた。

事務局 資料1、資料1-1～1-5に基づき、令和元年度松本市認知症事業報告について説明した。

事務局 資料2、参考資料2-1、資料1-5に基づき、令和2年度事業進捗状況について説明した。

事務局 資料3に基づき、若年性認知症支援広域ネットワーク会議開催について説明した。

(意見・質問)

議長 議長は報告事項について、委員から意見・質問を求めた。

委員(議長) 資料1-3令和元年度認知症サポーター養成講座事業報告書の中で、認知症サポーターの数が大変多くなったのは、信州大学の1年生の授業に取り入れたことだとあるが、何人位だったのか。

事務局 昨年度は一年生で1,000人位。キャラバンメイトになっている教授が中心となり積極的に取り組んでいただいている。今年度は既に500名ほど受けており、2,000人のサポーターの養成を予定している。

委員(議長) 資料1-5認知症カフェ等への開設・運営支援の中で、支援内容の白い四角と黒い四角の違いを教えてください。

事務局 包括支援センターが支援した内容については、黒い四角になっている。

(協議事項)

議長 議長は協議事項の説明を求めた。

事務局 資料4、資料4-1～4-4、別冊に基づき、高齢者等実態調査の結果を踏まえた第8期介護保険事業計画等の作成に向けた認知症施策について説明した。

(意見・質問)

議長 議長は協議事項について、委員から意見・質問を求めた。

委員 高齢者等実態調査の調査時期について教えていただきたい。

事務局 調査期間は、令和元年12月16日～令和2年1月15日。対象者は、要介護・要支援認定を受けている在宅の被保険者及び介護者3,000人、及び、要介護・要支援認定を受けていない在宅の第1号被保険者1,000人である。

委員 調剤のカウンターで患者様と接する際に、あれっと思う機会がある。直接関係しているケアマネジャーさんがいればその方へ相談しているが、いない時は地域包括支援センターへ連絡している。広く相談を受ける先として、地域包括支援センターは非常に貴重な存在だと思う。それを一番必要とする高齢者の56.7%が知らないと言うのは、非常に残念な数字である。何かあった時に相談できる先として、高齢者の皆さんに知っていただくと良いと思う。薬局も、相談を受けたら地域包括支援センターへ繋ぐことで、その方にとって良いケアが出来れば良いと思っている。

委員 デイサービスの送迎時に家族と話すことがある。相談窓口として、ケアマネジャーや地域包括支援センターを案内していることが多い。それでも、半分の人たちが知らないということに驚いた。ただ、認知症初期集中支援チームの事業報告の中で、把握ルートは地域包括支援センターが一番多いということもあり、地域包括支援センターの力が大切だと思う。これからも力を入れていただけたらと思う。

委員 今、何が必要かを考えるという意味では、高齢者等実態調査はとても大事な一歩だと感じた。これを進めていくと、本人ミーティングの企画になっていくと思う。先日、長野市で実施している本人ミーティングに参加したが、当事者の生の困り事を聞くことができた。実際に認知症のケアをしている家族に負担がかかっていると思うので、家族から情報を取っていくことも良いと思う。また、このところ続いている災害は、無視できない状況になっている。弱いものから犠牲になる可能性が非常に高い。認知症の方で適切な判断が出来ない場合に、どのように対応していくのかということも課題として今年は検討していく必要があると考えた。

委員 高齢者等実態調査は生の声として活かせると思う。地域包括支援センターの活動が目覚ましいということが数字に表れており、ご苦労されたのだと思う。その中で、地域住民や企業、団体への啓発活動の数字が伸びており、会社や学校を含めての地域全体での啓発が出来て、少しずつ理解していただけている事が見てとれた。これからは、災害とコロナ感染症で閉鎖された空間の中に居ざるを得ない、遠方の家族の支援を受けられないケースもあると思う。啓発活動が軌道に乗ってきたところに、新たな課題が出てきており大変な時期が来ると予想されるが、これからも頑張ってもらいたい。

委員 高齢者等実態調査にもあるが、介護が必要な場合でも在宅でサービスを利用したいという方が半数以上。地域包括支援センターから訪問介護の依頼が増えており、認知症の方が多いと実感している。どこへ相談していいかわからない人がまだまだいる。私たちは、依頼を受けてから訪問するが、認知症を隠したい思いがあり、近所の人にも言えない、地域の中で隠れている認知症の人がまだまだいると感じている。地域の細かい単位への周知が必要だと思う。コロナ感染症の予防で首都圏の家族が来られないという状況で、寂しい思いをしている方がたくさんいる。家族の代わりにはなれないけれど、日々努力してサービスを行っていききたい。

委員 高齢者等実態調査の中で、生きがいが思いつかない高齢者が59.5%いるということが気になった。デイサービスの利用者に生きがいを伺うと「デイサービスに来ることが生きがいなんだよ」とおっしゃる方がおられる。目的があるとか、何か自分なりに見つけることが大事だと思う。また、交通手段がないため、オレンジカフェに行かれない方がいると言うことに、以前から気になっていた。しかし、資料1-5のカフェの特徴に出張カフェというものがあ、考え方を改めて対策を取っており、努力を感じた。また、認知症ケア専門士や薬剤師が直接、介護相談にのってくれるカフェもあり、専門職から声をかけていただくと身にしみて感じるところがあると思うので、専門性を活かした取り組みをぜひ継続して行ってほしい。

委員 高齢者等実態調査の中の「地域の人にしてほしい支援」に、ゴミ出し等の身の回りの世話が上がっていた。社会福祉協議会に、介護保険の有無に関わらず利用いただける有償生活支援サービスというものがある。コロナウィルス感染症の影響で現在自粛中だが、傾聴ボランティアの派遣もやっている。認知症サポーター養成講座等で、取り組みを紹介できる機会があればありがたいと思っている。また、人形劇で認知症の理解を進めたいという方もいる。コロナウィルス感染症が終息したらぜひ地域包括支援センターやケアマネジャーと連携を図り活動していきたい。

委員 行方不明の高齢者は頻繁に発生している。本人が居れば、連絡して送り届けることが出来るが、本人が居なくなってしまった時は、防災無線や警察犬

を出動させて捜索をしている。自宅へ送り届けると、高齢者二人で住んでおり、見守り体制がとれないというのが現状ではないかと思う。GPS や携帯を持たせるような工夫をお願いしたい。

委員 30年ほど前から「8020運動」で、歯の本数を残すということに重点を置いてやってきた。次に「噛む」ということに対して、歯学部の教育も重点を置いてやってきており、だいぶ解決してきている。これから先は「飲み込む」ということ、安全な食生活というソフトの部分に入っていることが高齢者等実態調査から感じられた。歯科医師として、方向転換をしなくてはいけないとわかった。もう一つ、資料82ページ「普段から健康や介護予防のために気をつけていること」から、健康に関して市民の人の関心が高くなってきたと感じる。現在、予防的なこと、現在の高齢化社会にあった保険制度に変わってきている。また、歯科医師は介護の現場に対して無関心だったと反省している。介護に対して素人なので、皆様から教えていただくことがたくさんあると思う。今後ともよろしく願いいたします。

議長 他に意見がないことを確認し、以下の協議事項について協議会として了承した。

事務局 資料の中にもあったが、何かあった時にかかりつけ医に相談される方が非常に多い。また、受診や取り組みのきっかけが、かかりつけ医に言われたことが元になっていることがある。医療コーディネーターの立場から、行政の取り組みを把握してもらうためにもぜひ地域の先生方に「認知症思いやりパスブック」を1冊ずつ配っていただけないかと思う。配布していただければ、先生方の目線で、アドバイスしていただけると思う。

委員 歯科医師会にも「認知症思いやりパスブック」配布を是非お願いしたい。

事務局 わかりました。配布いたします。松本市のホームページから「認知症思いやりパスブック」をダウンロードすることもできるので、役立てて欲しい。

議長 他に意見がないことを確認し、議事を終了した。

(4 その他)

課長 課長はその他の説明を求めた。

事務局 城西病院認知症疾患医療センター令和元年度実績報告について説明した。

課長 閉会を宣言し、午後2時30分散会した。